

社会科学習指導案

平成18年10月27日（金曜日） 第5校時（13：30～14：20）

桐生市立川内中学校 1年A組 体育館 指導者 小池 聖 文

授業の視点

鎌倉時代の学習の導入に当時の人々の生活の想像図と地域教材を使って、人々の生活を考えさせることは、武士の時代が始まることへの興味・関心を高め、多面的・多角的な思考を促すうえで有効であったか。

I 題材 武士の世のはじまり（単元 武家政治と東アジア）

1 考察

(1) 教材観

本題材の具体的な学習内容は、①武士の登場②鎌倉幕府の成立③元寇④鎌倉時代の文化である。①からこの時期の我が国では、政治や社会、文化の面で大きな変化が見られ、武士の支配が次第に広まっていったことを学び取れる。②では鎌倉に御家人制度を基盤とする幕府が開かれ、武士の支配が次第に全国的に広まり、武家社会が発展していったことを理解させることができる。③では鎌倉時代の東アジア世界との関わりを気づかせ、日本と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考えさせられる。④では武士を中心とした社会の変化を理解させるとともに、新たな文化の特色についても考えさせることができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

本題材で登場する武士によって武家社会が始まり、南北朝時代や戦国時代を経て、全国統一がなされる。その武士のおこりについて学習するこの題材では、これに続く650年間の歴史に関心・意欲、そして興味を持って学習していく態度を育てていくためにも重要な位置を占めていると考える。また桐生市には国指定重要文化財「彦部家屋敷」という建物が残っていて、この地域教材を使うことにより、歴史をより身近に感じさせ、一層関心を高めていきたい。

【社会的な思考・判断】

本題材では、土地を仲立ちとして御恩と奉公の関係を結び、戦うことを生きる道とした武士の生活を農民や貴族の生活と比べたり、武家社会での政治と朝廷や貴族が行ってきた政治と比べたりして多面的・多角的に考察していくことができると考える。

【資料活用の技能・表現】

課題解決学習の課題として、源氏と平氏、鎌倉幕府、武士と貴族、鎌倉時代の文化を中心に追求させていく。これらの課題はインターネットでの情報量も多く、図書館の本からも比較的容易に調べていくことができるので、様々な情報の中から自分の必要な情報を取り入れていく技能を身につけていくことができる。さらに武士特有の文化についても、資料を収集し、貴族の国風文化と比べることにより、資料の活用や表現の能力を十分伸ばしていくことができると考える。

【社会的事象についての知識・理解】

本教材を通して、当時の武士の生活を知ることにより、命をかけて戦うために禅宗などの新しい宗教も発達したことも理解させたい。本題材での課題解決学習を通して、一人一人の生徒が知識・理解を着実に身につけていくことができると考える。

(2) 研究主題とのかかわり

関ブロ群馬大会の研究主題「確かな学力を育てる社会科教育の展開」－基礎・基本を確実に身につけ、社

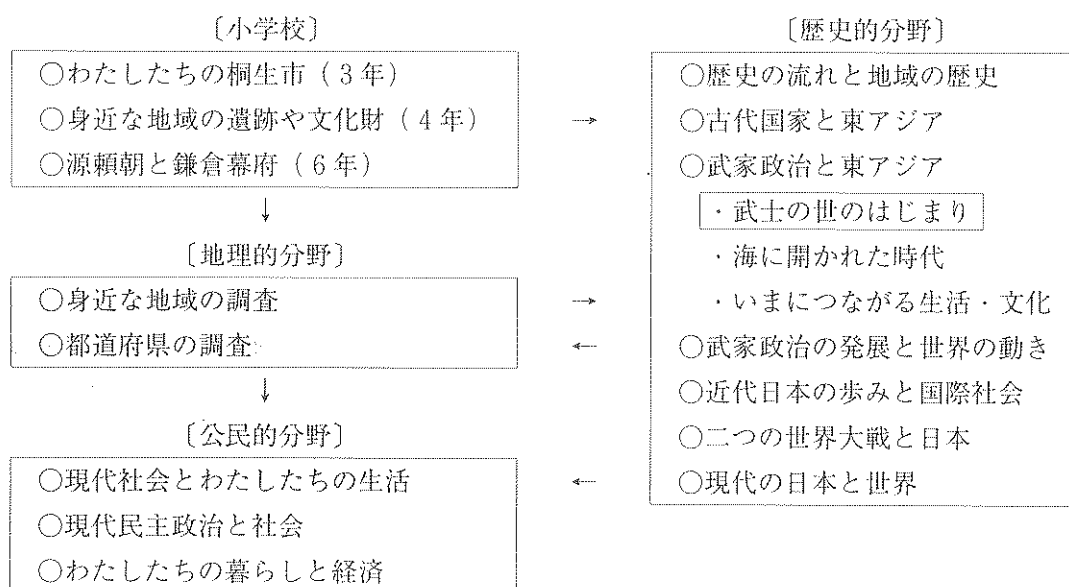
会的な見方や考え方を育む授業の創造—を踏まえ、歴史的分野の研究では分野別研究主題を「様々な情報を活用して、歴史的な見方や考え方を育てる指導の工夫」としている。

この主題を受け、社会科の基礎・基本については、【社会的事象への関心・意欲・態度】【社会的な思考・判断】【資料活用の技能・表現】【社会的事象についての知識・理解】の4つの観点からアプローチをはかっていく。

また、様々な情報については、特に地域の教材を使用し、生徒が歴史をより身近に感じることができるように工夫していくことと考える。地域素材の教材化は、歴史上の出来事が自分の住んでいる地域にも残っていることを実感することにより、生徒がより興味を持って歴史の学習に取り組むことができると考えたからである。また現在まで伝わっている文化遺産の価値を考えさせ、それらを尊重する態度を育てていく。さらに、身近な地域の教材を使うことにより、実感できる資料を活用していくという社会科の学び方を身につけていく。

歴史的な見方や考え方については、課題解決的な学習を通して見いだされる様々な情報を取り入れ、比較し関連付けるなどして、多角的・多面的に考察する能力を育てていく。具体的には、武士や農民、貴族の生活を比べたり、政治の違いを考えたりしていく中で育てたいと考える。

(3) 教材の系統



(4) 生徒の実態

本学級の生徒は29名（男子13名、女子16名）、まじめに熱心に社会科の学習に取り組んでいる。本学級には介助員を必要とするADHDの生徒が1名いるが、授業は声かけをしていけば、頑張って取り組むことができる。全体としては、授業中は積極的に発言できる生徒が多い。

本題材における事前調査の結果は

① 歴史の授業は好きですか。

は い 16名 いいえ 8名 どちらともいえない 5名

② 調べ学習は好きですか。

は い 15名 いいえ 3名 どちらともいえない 11名

③ 調べたものをまとめることは好きですか。

は い 10名 いいえ 7名 どちらともいえない 12名

④ 発表することは好きですか。

はい 3名 いいえ 15名 どちらともいえない 11名

⑤ 調べ学習をするとしたら、どんなもので調べますか。(いくつでも)

パソコン 21名 教科書 14名 資料集 6名

本 6名 図書館 3名 人に聞く 1名 無答 4名

⑥ 鎌倉幕府ができたのは何年でしょうか。

1192年 22名 誤答 5名 無答 2名

⑦ 鎌倉幕府を開いたのは誰ですか。

源頼朝 24名 豊臣秀吉 1名 徳川家康 1名 無答 3名

⑧ 領地を守ろうと武芸にはげんだ人たちを何というでしょう。

武士 18名 誤答 1名 無答 10名

⑨ 鎌倉時代に大陸からせめてきた軍を何といいますか。

元軍 18名 誤答 2名 無答 9名

【社会的事象への関心・意欲・態度】からみた生徒の実態

上のアンケートからも分かるように自分の考えを発表することに対して苦手意識を持っている生徒が多いが、授業中は積極的に発言できる。地理より歴史の好きな生徒が多く、授業に集中してがんばることができる。武士の世の中については戦国時代を中心に興味が高く、武士の登場については楽しみにしている生徒が多い。社会科の好きな生徒が多いので、本題材の課題解決的な学習を通してさらに関心・意欲・態度を伸ばして、このあと続く歴史の学習により意欲的に取り組む生徒が増えると考え。

【社会的な思考・判断】からみた生徒の実態

貴族や武士、農民について、それぞれの出で立ちや働き等を理解をしているが、歴史の中で対比して考えた経験はない。身分の違いや生活を比べることにより、歴史事象を多面的・多角的にとらえる学び方を身につけていくことができる。また課題解決的な学習の各班の発表からさまざまな情報を取り入れることを通して、多面的・多角的に考察し、判断していく方法を学ぶことができると考える。

【資料活用の技能・表現】からみた生徒の実態

アンケートからも分かるように、授業中は積極的に発言することはできても、調べたことを自分なりにまとめて発表することがあまり得意でないことから、1年生のこの時期に本題材で課題解決学習をすることは生徒の表現力を育てるために意義がある。また実際に調べるノウハウもわかっているため、インターネットなどを使わせて資料の収集をさせたい。さらに課題解決学習を通して、自分が必要とする資料の収集していく技能やそれらをまとめて表現していく能力をさらに伸ばしていくことができると考える。

【社会的事象についての知識・理解】からみた生徒の実態

本題材への知識・理解については、ほとんどの生徒が鎌倉幕府が何年に誰が開いたかを理解している。また武士の定義づけもできている生徒が半数以上を占める。NRT学力検査の実施から歴史的分野の正答率は59.8で全国平均の53.3を上回っている。本題材の課題解決学習を通して、小学校で学んできた鎌倉時代よりもさらに多面的・多角的に理解し、武家社会として変化していった我が国の歴史の流れをとらえさせることができると考える。

2 目標

武士が台頭して鎌倉幕府が開かれ、御恩と奉公に基づく武家政治が行われたことや武家的な文化が生まれたことを理解する。

3 評価規準

□…単元の評価規準 ○…本題材の評価規準（おおむね満足できる状況）

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用・表現・社会的	事象についての知識・理解
□武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追求し、文化遺産を尊重しようとする。 ○武士の台頭に関心を持ち、鎌倉時代について意欲的に調べている。	□武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。 ○武家政権の成立について、鎌倉幕府の動きを中心に考察することができる。	□武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択するとともに、追求し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ○鎌倉時代の人々の生活を示した資料を収集し、平安時代とのちがいを表現することができる。	□武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史と関わる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につけている。 ○武家政権の特色や鎌倉時代の人々の生活を理解している。

4 指導方針

○課題解決的な学習について

- ・生徒が意欲を持って学習に取り組み続け、多角的・多面的な思考を育てていくことができるように課題解決的な学習に取り組ませたい。
- ・課題の設定では、個人で考えさせ、自分興味のあることを追求していくことができるようにしていく。
- ・自己課題を多角的・多面的にとらえられるように武士と貴族、農民等の比較からとらえさせたり、共通性（一般性）や特殊性などを上げさせたりしながら比較させる。
- ・追求調査では、図書室の資料やインターネットを使い収集させる。インターネットでは、ある程度の資料の教師用のパソコンのハードに入れておき、紹介できるようにしたい。
- ・生徒が調べ学習をしていくために必要な様々な歴史資料やインターネットでの情報を用意し、資料を組み合わせたり、比較したりできるようにする。
- ・班での発表を通して、様々な情報を活用して、多面的・多角的に「武士」についてとえられるようにしていく。

○指導法について

- ・個人で課題を考えさせたあとに班でまとめていくことを通して、一人一人の生徒の考え方が深まるようにする。
- ・個別学習や小集団での学習、一斉学習など、学習形態を工夫し、社会科の基礎・基本を身につけさせ、歴史的な見方や考え方を深めていきたい。
- ・班ごとに役割を分担して全体で発表させる。情報を共有する場面を設定し、お互いの情報から鎌倉時代について学び取ることができるようにしていく。

○身近な地域の文化財の扱いについて

- ・身近な地域教材を取り上げるにより、生徒の学ぶ意欲を高めていく。
- ・国指定重要文化財「彦部家屋敷」や川内地域の文化財や遺跡をもとに中世の武士や人々の生活をとらえさせる。
- ・桐生にある文化財に触れることを通して、長い歴史の一部を伝える文化財を大切にする態度を育て、そのような文化財を持つ「桐生を好きな子」を育てる。

5 指導と評価の計画（全8時間予定）

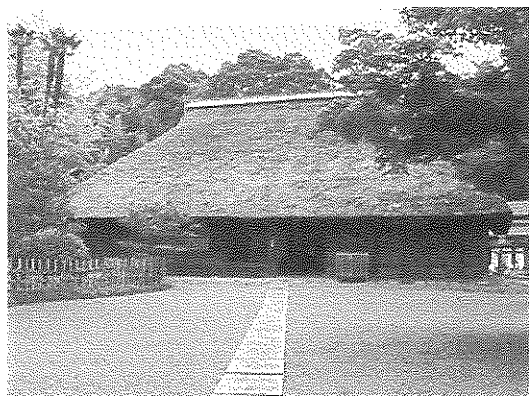
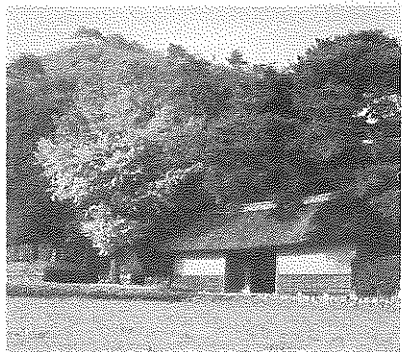
時間	主な学習活動	支援および留意点	○評価項目と【評価方法】	
課題の把握	第1時 【本時】	中世の想像図から 当時に人々の生活 の様子を知り、武 士のおこったこ ろの学習への興味を もち、武士の役割 について多面的・ 多角的に考える。	絵から個人で気づく場面とグル ープで当時の人々の生活について まとめる場面を設定する。 課題の把握の段階での資料提示 の工夫として地域の教材を使い、 実物の大きさを理解させる。	○教科書の想像図をもとに武士の生活や役 割について自分なりに考え、これからの 学習に興味をもつことができる。 【付箋・ワークシート・発言】 ○武士の生活や役割について他の集団と対 比・選別することを通して、武士の役割 について多面的・多角的に考えることが できる。 【付箋・ワークシート・発言】
	第2時	自分の課題を決定 する。 ・源氏と平氏 ・鎌倉幕府 ・武士と貴族 ・鎌倉の文化	自己課題を決定し、調査の計画 を立てる。 武士と貴族、農民等を比べること ができるような学習計画が立 てられるようにさせる。	○武士の台頭に関心をもち、鎌倉時代につ いて意欲的に調べている。 【観察・ワークシート】 ○武士や貴族、政治のしくみや文化のちが いを比べていくことのできるような活動 計画をつくることのできる。 【観察・ワークシート】
課題の追究	第3 4 5時	班ごとに課題に対 しての追求・調査 活動をし、発表原 稿・資料を作る。	班別に役割分担を行い調査し様々 な情報を収集させる。 収集した情報から、設定した課 題に関することを気づかせる。 中間の意見交換の時間をとり、 同じ課題を設定した生徒やちが う課題の生徒と互いに報告させ る。 課題追求における工夫として、 追求過程の調査、考えの深まり、 まとめから発展課題と一連の流 れの分かるワークシートを用意 する。	○生活の仕方や政治の制度、文化の背景な ど、比較して特徴をとらえる見方や立場 を変えた見方のできるような資料を選ぶ ことができる。 【観察・ワークシート】 ○課題に対する様々な資料を収集して活用 するとともに、わかりやすくまとめるこ とができる。 【観察・ワークシート】 ○生徒同士の資料や意見の交換を通して、 歴史の流れと時代の特色を多面的・多角 的に考察することのできる。 【観察・ワークシート】
	第6時	班ごとに発表して、 他の班の発表をも とに鎌倉時代につ いてのまとめをす る。	グループごとに役割を分担して 発表させる。 まとめにおける工夫として、パ ネルディスカッションを行い、 情報を共有する場面を設定し、 お互いの情報から鎌倉時代につ いて学び取ることのできるよう に配慮する。	○鎌倉時代の人々の生活を示した資料を収 集し、平安時代とのちがいを表現するこ とができる。 【発言・観察・ワークシート】 ○武家政権の成立について、鎌倉幕府の動 きを中心に多面的・多角的に考察するこ とができる。 【観察・ワークシート】
まとめ	第7時	元寇の背景をつか み、元寇が鎌倉幕 府や御家人に大き な影響を及ぼした ことを理解する。	・元寇が防戦であったことから 恩賞が十分に与えられず、御 家人の生活が窮乏したことを 理解させる。	○元寇の原因と結果・影響について、アジ ア地域の動きと国内の政治状況を背景に 多面的・多角的に考察できる。 【発言・観察・ワークシート】 ○元寇の原因と、それが鎌倉幕府の政治に 及ぼした影響が分かる。 【観察・ワークシート】
	第8時	本題材で学んだ事 項の確認をする。	この単元で補わなければなら ない用語の確認をする時間をとる。	○武家政権の特色や鎌倉時代の人々の生活 を理解している。 【観察・ワークシート】

Ⅱ 本時の学習指導

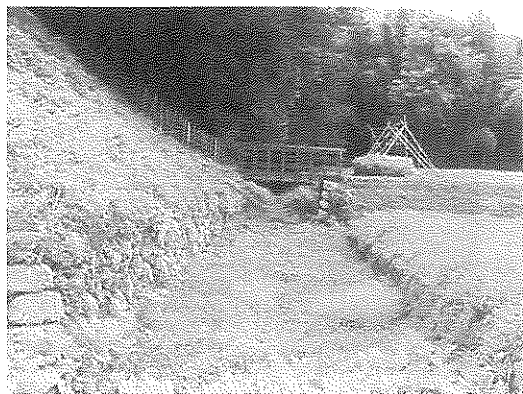
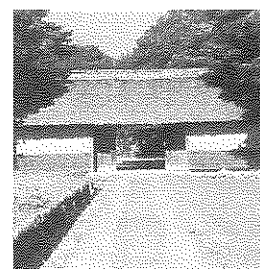
- 1 目 標：中世の人々の生活の絵から、武士のおこったころの学習への興味をもち、武士の役割について多面的・多角的に考えることができる。
- 2 準 備：教科書（帝国書院「中学生の歴史」）、資料集、ワークシート（個人用・班用）、付箋、パソコン、プロジェクター、スクリーン
- 3 展 開

ねらい（時間）	生徒の活動	支援及び留意点・評価項目〔方法〕
1 既習の歴史の学習の確認と本時の内容を知らせる。（3分）	○既習の歴史の学習の確認と本時の内容を知る。	・歴史の授業への切り替えとして前段階までの学習事項や小学校での歴史で学んだことを思い起こさせる。
2 教科書の図から当時の人々の生活の様子を読み取らせる。（37分）	○教科書P.52・53を見て、当時の人々の生活を読みとる。 ・人々の様子について、どんな生活をしていたのかを個人で読みとり、付箋書く。 ・班でKJ法を使い、当時の人々の生活をグループ分けする。 ・武士は何をしていたのか班ごとにくわしく見ていき、まとめる。 ・班ごとに武士の役割について発表する。	・中世の人々の生活を表した想像図からどんな人々がいるのかを個人で読みとる。読みとったものを付箋に書く。 ・武士や農民について、自分なりの考えを持つことができるように考える手掛かりを示して支援する。 ・班でまとめていく中で、武士や農民、職人や宗教的な集団等のグループ分けをする。 ・KJ法により、生徒のよい気づきが埋もれてしまうことがあるため、助言していく。 ・武士の生活の様子から当時の武士の役割についてまとめる。 〔戦いに備える 武器・馬・鷹〕 年貢を納めさせる 門外や地域の警備 ・班でのまとめや他の班の意見を聞くことを通して一人一人の生徒が自分の考えを広げ、深めていくことができるようにする。 【関】教科書の想像図をもとに武士の生活や役割について自分なりに考え、これからの学習に興味をもつことができる。 〔付箋・ワークシート・発言〕 【思】武士の生活や役割について他の集団と対比・選別することを通して、武士の役割について多面的・多角的に考えることができる。 〔付箋・ワークシート・発言〕
3 桐生市にも教科書の図に近い歴史的な建物が残っていることを知らせ、驚きをもたせる。（7分）	○「彦部屋敷」のパワーポイントを見て、当時屋敷に住んでいた人の生活を想像する。	・人間と屋敷の中にあるものを対比して大きさをつかませ、またいろいろな角度から観察できるように構成する。 ・教科書の想像図だけで考えてきたものを地域教材を使い実際の大きさを感じさせ、多角的な見方や公正に判断していく力を育てていく。
4 本時のまとめをし、本題材の活動を知らせる。（3分）	○本時のまとめを聞き、本題材の学習を知る。	・本時のまとめを聞き、本単元では武士のおこりとその生活について学習することを知らせる。

中世の武家屋敷～彦部家屋敷～

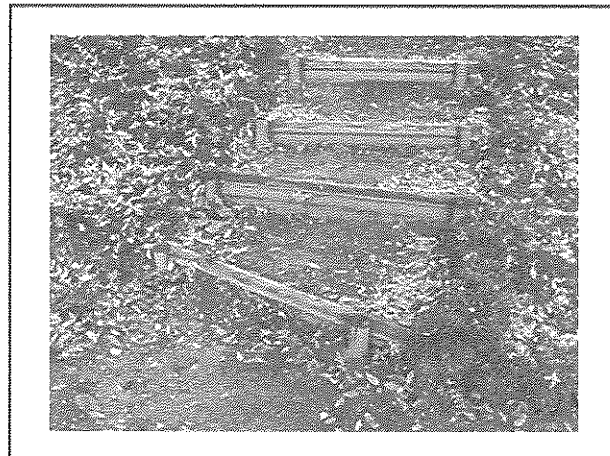
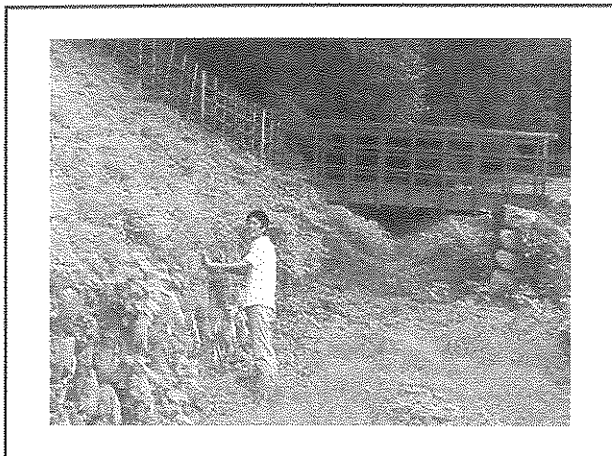


母屋 長屋門

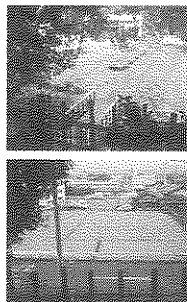


外堀 木橋

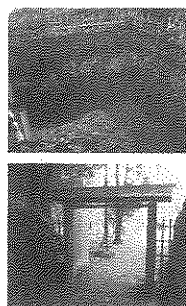




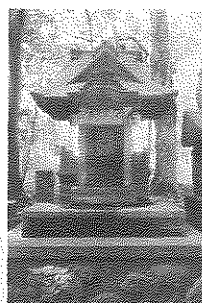
櫓台(やぐらだい)



からめ手口と門



竹ヶ岡八幡宮 (1102年～)



- ・ 八幡宮とは
源義家の八幡太郎
義家の名前に由来
する
武士のための神社で
す。
鶴岡八幡宮(1186年～)